

移民政策

ライブラリ

埋葬

土葬が宗教上の行為などに該当するなら、埋葬は公共に関わり、土葬は全体の参加を強制するため認められません。

土葬が宗教上の行為などに該当しないなら、宗教とは無関係のため、土葬は信教の自由によって保証されません。

結論として、日本は土葬を許可する必要はありません。火葬を通せます。土葬を日本に広める根拠はありません。

日本国憲法

第二十条 信教の自由

② 何人も、宗教上の行為、祝典、儀式又は行事に参加することを強制されない。

※PDF作成者による抜粋

e-Gov法令検索

<https://laws.e-gov.go.jp/>

給食

ハラル食が宗教上の行為などに該当し、献立をハラル食に統一するなら、全体の参加を強制させるため認められません。

ハラル食が宗教上の行為などに該当しないなら、宗教とは無関係のため、ハラル食は信教の自由によって保証されません。

結論として、ハラル食を全員に出さなくても信教の自由に反しません。全員にハラル食を出すのは信教の自由に反します。

祈る場所

祈りを捧げている人たちの邪魔をしないように周りが努めれば、宗教の行いに参加することになり、公共の場所なら強制参加となるため、お祈りは定められた場所でした方がいいが、ところ構わずの精神が宗教から来るなら思想が歪んでいるので、退場して頂くしかありません。

宗教上の行為の強制参加は認められません。

多様性

多様性を認めるなら、多様性を否定する人達も多様性の一つですので、多様性を標榜する側が反多様性を否定するなら、多様性ではありません。

差別

自国民は「外国人の行い」を批判しているのであって、外国人を差別しているわけではありません。外国人行為への批判が差別にあたるなら、「他所から来た」ことを認める「外国人」という言い表し方も差別です。

「外国人を差別するな！」と宣（のたま）う外国人は、自分で自分を差別しています。

優秀

ハリウッドスターは「自分は映画〇〇の主演を務めた」といちいち説明しません。すでに周りは知っていますし、当人は俳優として自信があるからです。

「自分が信仰している宗教が一番優れている！」と聞いてもないのに言い出すなら、その宗教は優れてません。優秀さに自信がないから「優れている」と自分から言い出すのです。

自由

「夜中に公園で大声を出す」「集合住宅の敷地内にゴミを散乱させる」「大量のゴミを残したまま退去する」「婦女暴行」などが「自由」なら、迷惑者排除や迷惑者立入禁止措置も「自由」です。

違法行為外国人の連行が「差別」なら、違法行為外国人の容赦も「差別」です。

労働力

大量の労働力を輸入したつもりが、大量の文化も輸入してしまいます。輸入した国の文化は乱れ、收拾がつかなくなります。

外国人にとって日本は外国で、大切にしたいのは母国ですから、相手国を尊重する気がなければ好き放題して自国へ帰ってしまいます。「外国人は全員いい人」という認識は幻想でしかありません。

勝手

手に入る時は「神からの恵み」で、罰せられる時は「神からの罰」と認識しないなら、強奪が肯定されます。

神から恵みを与えられるために祈りを捧げるなら、他人に依存する生き方になり、主体性がありません。

住処

他へ行って拒否されて、ここへ来て、他で断られた理由が、「地元を尊重しなかったから」なら、ここも同じで、この場所に固執する理由はないはずなのに固執するなら、「侵略しやすさ」が疑われるためお断りするしかありません。

地元を尊重してくれるなら、話は別です。

最終更新日 2026-09-12

[まこと](#)